

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

未来の社会をリードする人材を育成することで地域の誇りとなる学校をめざす

- 1 自立心と進取の気概を育成する
- 2 フェアなルール感覚を育成する
- 3 多文化共生・国際教育を推進する
- 4 科学的・論理的に考え行動する人材を育成する

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

- (1) 自分の考えをまとめたり、発表したりする機会の多い授業づくりを推進する。
 - ア 説明・発表・討論等を通じて、「思考力・判断力・表現力等」を育成するような「言語活動の展開」をめざす。
 - イ グループ活動、ペアワークなどを取り入れ、学習意欲を高めることに尽力する。
 - ウ 資料の読み取り、文章読解といった「読解力」を育む授業づくりに取り組む。
- (2) 新学習指導要領の趣旨を生かした授業づくり、学習指導を推進する。
 - ア 観点別学習状況評価により、生徒に「学び方」を学ばせ、「学ぶ力」を育成する。
 - イ ペーパーテストのみによらない評価（パフォーマンス評価やポートフォリオ評価など）により生徒の学習成果を様々な観点から評価する。
- (3) 「総合的な探究の時間（LINC）」の内容を充実させ、自ら課題を発見し、調査しまとめ、発表する力の育成をめざす。
- (4) 実践的な英語教育と多文化共生・国際教育を一層推進する。
 - ア 英検の積極的な受検を推進し、実践的な英語力を育成する。
 - イ 外部機関との連携やオンラインなどを活用して異なる文化に触れる機会を創出し、新しい形の国際交流を推進する。
- (5) ICT 機器や1人1台端末を活用し、情報共有や質の高い授業と講習を実施する。

※学校教育自己診断：生徒の「授業を工夫している先生が多い」85%以上を維持（R2：75.5%、R3：81.3%、R4：85.3%）

2 10年後・20年後の将来を見据えた進路希望の実現

- (1) 進路講演やガイダンスを通じて、自分の将来像を描き目標とする進路を定める。
- (2) 学力生活実態調査や学力診断テストなどのアセスメントを活用し、進路目標までのマイルストーンを描き進路実現をめざす。
- (3) キャリア・パスポートを活用しながら、生徒一人ひとりが自らの学びや生活を見通し、振り返ることができるようにする。

※希望進路達成率（第2希望も含めて）令和7年度には85%以上をめざす（R2：80.8%、R3：81.2%、R4：80.3%）。

3 日常の中で自律し、社会の中で自立できる人材の育成

- (1) 生徒会活動の活発化を図り、学校行事を充実して全生徒の自律心と自立心を高める。学校生活の充実度を高める。
- (2) クラブ活動の充実をめざす。各部が成果を出せるよう積極的に支援を行う。
- (3) 教職員が人権感覚を高め、生徒が安心して通えるいじめや差別のない学校づくりのため、積極的に人権教育を推進する。
- (4) 遅刻・服装指導等の継続、清潔できれいな学校作り、メディアリテラシー教育を進める。自宅学習時間の確保を考える。

※入部加入率を令和7年度には加入率80%をめざす。（R2：73.4%、R3:72.6%、R4：75.3%）

※学校教育自己診断：生徒「学校では、生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている。」85%以上維持（R2：83.8%、R3：84.1%、R4：78.2%）

※年間総遅刻件数 1,400 件以下を維持（R2：1,612 件、R3：1,421 件、R4：1,844 件）

4 家庭や地域、世界とつながり、発信していく学校づくり

- (1) ユネスコスクールとして国際交流、地域交流そして社会貢献を推進する。「人権」、「国際理解（国際協力）」、「ESD（持続可能な開発のための教育）」等による「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に向けた取組みなどを通じ、グローバルな視野をもった人材を育成する。
- (2) 保護者へは本校教育の理念や教育の実施状況を、地域には学校の取組み内容や状況をタイムリーにかつ具体的に発信する。

※学校教育自己診断：生徒「環境、国際理解、福祉ボランティアなどについて学習する機会がある。」80%以上維持（R2：81.0%、R3：87.5%、R4：69.5%）

※学校教育自己診断：保護者「学校は、教育情報について、提供の努力をしている。」80%以上維持（R4：74.0%）

5 校務の効率化と働き方改革の推進

- (1) ICT を活用して校務の効率化を図り、教職員の事務作業に係る時間を軽減することで生徒と向き合う時間を確保する。
- (2) 「大阪府部活動の在り方に関する方針」・「府立学校における働き方改革に係る取組みについて」などを踏まえ、生徒・教職員の健康管理体制を充実させる。

※月間超過勤務時間 80 時間を超えたことのある職員数を令和7年度までに年間 10 人未満とする。（R2：9 人、R3：8 人、R4：10 人）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) 自分の考えをまとめたり、発表したりする機会の多い授業づくり	(1) ア ・校内公開授業の機会や授業アンケートを活用して授業改善を推進する。	(1) ア ・全教科で1回以上の校内公開授業を行う。 ・授業アンケート「6 自ら考える時間や発表)する活動を多く取り入れている」の平均3.4以上。 [3.36] ・学校教育自己診断「考えをまとめたり発表したりする機会がある」80%以上維持。 [89.8%]	
	(2) 新学習指導要領の趣旨を生かした授業づくり	(2) ア ・教務部が中心となって各教科の評価内容・方式を集約し共有する。	(2) ア ・各教科の評価内容・方式を整理して全教職員で情報共有する。 ・よりよい「学び方」を身につけさせる実践の情報交換を行う。	
	(3) 「総合的な探究の時間(LINC)」の課題研究	(3) 指導計画をもとにグループに分かれた「課題研究」に取り組ませる。	(3) ・生徒によるポスター発表(中間期)、成果発表会(年度末)を校内で実施。代表者は LETS 合同発表会に出場させる。 ・学校教育自己診断「『総合的な探究の時間』は役に立つと思う」70%以上。 [60.2%]	
	(4) 英語教育と国際教育	(4) ア ・外部試験を活用して実践的な英語教育を推進する。 ・スピーキングなど表現力を育む指導を工夫・推進する。 イ ・創意工夫により海外等との交流を図り異なる文化と接する機会をつくりだす。	(4) ア ・英検の積極的な受検を推進する。 ・スピーキングテストを各学年で複数回実施する。 イ ・海外派遣研修を2回実施する。	
	(5) ICT等の活用	(5) ア ・ICTを積極的に授業で活用し学習効果を高める。	(5) ア ・学校教育自己診断 教員「コンピュータ等のICT機器が授業などで活用されている。」95%以上[96.3%]	
現 210年後・20年後の将来を見据えた進路希望の実	(1) 自分の将来像を描き目標とする進路を定める。	(1) 各学年とも年間1回は、大学・専門学校と連携した講演やガイダンス等を実施する。	(1) 希望進路達成率(第2希望含む)80%以上を維持する。 [80.3%]	
	(2) 学力生活実態調査や学力診断テストの活用	(2) ・学力生活実態調査を1・2年生は4月・8月、3年生は4月に実施し結果分析を行う。 ・学習到達度テストを1・2年生は1月、3年生は6月に実施し結果分析を行う。	(2) ・学力生活実態調査の学力結果(8月実施分、国数英総合、人数) 1年生 A3:70以上[62] B2:220以上[230] 2年生 A3:60以上[51] B2:180以上[150]	
3 日常の中で自律し、社会の中で自立できる人材の育成	(1) 生徒会活動の活発化	(1) 生徒会により安心して安全な学校行事計画の立案と実施を進めさせる。	(1) 学校教育自己診断「生徒会活動が活発である」肯定的評価85%以上 [81.8%]	
	(2) 部活動の活性化	(2) クラブ活動加入率増加をめざし、年度当初のクラブ見学を充実するとともに、各クラブが成果を出せるよう生徒会や後援会が支援。年度途中でも入部しやすい環境づくりに取り組む。	(2) クラブ加入率76%を達成する。 [75.3%]	
	(3) 人権教育の推進	(3) ・人権感覚を高めるため、職員人権研修を実施する。 ・人権ホームルームを実施し、人権感覚豊かな集団づくりを進める。	(3) ・学校教育自己診断「体罰やセクシャル・ハラスメントの防止をはじめ、人権尊重の姿勢にもとづいた生徒指導がおこなわれている」90%以上。 [94.20%] ・学校教育自己診断「人権やについて学ぶ機会がある」85%以上。 [88.1%]	
	(4) 遅刻・服装指導等の継続、清潔できれいな学校づくり、メディアリテラシー教育推進	(4) ・遅刻指導を継続し、さらに時間を守る意識を高め、生徒の生活習慣を向上させる。 ・メディアリテラシー教育(SNSに関する指導)を計画的に行う。また折に触れ担任などからSNSの使い方などについての指導を実施する。	(4) ・年間総遅刻件数1,400件以下。 [1,844件] ・生徒指導課長講話、外部講師による講演、その他、人権委員会の取組みなどで年間3回以上の組織的な指導を行う。	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4 家庭や地域、世界とつながり、発信していく学校づくり</p>	<p>(1) ユネスコスクールとして国際理解、社会貢献、SDGs への取り組み</p> <p>(2) 保護者・地域への情報発信</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィンランドの高校との生徒相互派遣事業やカンボジア・スタディーツアーの実施、国際NGO との連携などを通じて、国際理解、社会貢献、SDGs への取り組みを深める。 ・ユネスコスクールとして国内外に情報発信を行い、その取り組みを校内の共有財産とする。 ・地域への貢献活動を推進する。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページなどから本校の教育理念や行事等の取り組み状況を保護者・地域に発信して本校に対する理解を促進する。 ・保護者への連絡が確実に届くよう、文書はすべてメール添付にて送信する。 ・地域が主催する様々なイベントに参加する。 ・学校パンフレットを刷新する。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断 生徒「環境、国際理解、福祉ボランティアなどについて学習する機会がある。」70%以上[69.5%] ・全国あるいは地域の発表会やコンテスト等に1回以上参加する。 ・地域への貢献活動への参加及び実施。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者・地域向け情報をホームページより毎月3回以上は発信する。 ・学校教育自己診断 保護者「学校は、教育情報について、提供の努力をしている。」80%以上[74.0%] ・泉南地域の全公立中学校を訪問する。 	
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">5 校務の効率化と働き方改革の推進</p>	<p>(1) ICT を活用した校務の効率化</p> <p>(2) 「大阪府部活動の在り方に関する方針」・「府立学校における働き方改革に係る取り組み</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラウドカレンダーを活用し情報共有を効率化する。 ・会議資料の電子配布により会議準備・会議時間の短縮を図る。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の出欠連絡をクラウドサービスで実施する。 ・職員の定時退庁日（ノークラブデーと併用）を週1回設定し、確実に実施する。 	<p>(1) (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月間超過勤務時間 80 時間を超えたことのある職員数を年間 10 人未満 [10 人] 	